

第31号 20円
昭和48年 6月25日
内容

理事会・評議員会	2
野外集会場の建設	3
共同セミナー委員会	3
ヨーロッパの学生寮を見て	4
大学教員懇談会	5
第57回大学共同セミナー	6
第58回大学共同セミナー	7
千人会の輪を広める	8
会員校事務連絡会	10
業務通信・利用状況	11

セミナー・ハウス

SEMINAR HOUSE NEWS

発行
財団法人 大学セミナー・ハウス
《所在地》
東京都八王子市下柚木
電話 0426-76-8511~3
《東京事務所》
東京都中央区日本橋本町 3の3
三井銀行本町支店ビル5階
電話 東京(241)3961
振替口座 東京 74590番
編集・発行人 飯田宗一郎
製作 中央公論事業出版

昭和四七年はたまたま当法人創立一〇周年、開館七周年に当たりましたので、一月一八日に三笠宮殿下のご臨席を仰ぎ、理事、評議員各位ならびに会員校の教員、学生多数のご出席のもとに、盛況裡に記念の式典を行なうことができました。

この過ぎた七年を一期と画し、つぎの七年間に大学セミナー・ハウスはいかに進展し、日本、あるいは世界の大学教育にいかにか寄与すべきかが、私どもに与えられた課題であります。この際私どもは当セミナー・ハウス創設時の諸先輩のご苦労とご努力を顧みて初心を忘れず、設立の趣旨に添って一段の努力、奉仕を致すべき決意を新たにいたしております。

昭和四七年度の収支は、緊急出費もなく一応のバランスを保つてまいりましたが、近年諸物価の値上りによって、人件費、物件費などが急激に増加し、なんらかの方法によって収入の増加を計らなければならぬ状態に立ち至っております。

昭和四七年度の収支は、緊急出費もなく一応のバランスを保つてまいりましたが、近年諸物価の値上りによって、人件費、物件費などが急激に増加し、なんらかの方法によって収入の増加を計らなければならぬ状態に立ち至っております。

当財団の経常収入としては、会員校の会費(昭和四七年度で全体の二三%)と、利用者の宿泊料金(同上五〇%)が主要な部分を占めておりますが、当ハウスの性格上このような利用者の負担を増額していくよりは、利用者の数を増すことで増収を計っていく方が、筋道かと考えております。幸い現在の宿泊施設利用率は四九%程度

か、まだまだ少なからず余力がありますので、利用希望日を早目にご相談いただくなど皆様の、この点についての協力をお願い申し上げる次第であります。

つぎに本年度の施設計画として、当セミナー・ハウスの生活を一層楽しくかつ効果的なものとするために、講堂内における映写装置ならびに敷地内の遊歩道、集会場新設などを考慮しており、また、

珍らしい、おそらくは唯一のものかもしれません。自然林に囲まれた美しい庭で、夕には星をいただいて野外劇や音楽を楽しんだり、時にオーブン・エヤの大セミナー場ともなり、あるいは議論に疲れたあとのコーヒー・ブレイクの団欒の場所ともなりましょう。ステージの前面には約一五〇人分のベンチを設けることになっていきますが、おそらくは講堂あるいは図書

かねて開館七周年の記念事業として講堂西側の斜面に計画いたしました野外自転車振興会から補助金をいただくことができましたので、このほど着工いたしました。来たる一月一日(土)には、会員校の学生諸君とともに楽しく開場の式を行ないたいと存じております。この野外集会場は、飯田専務の発案になるもので、わが国には

館のバルコニーからも、また松下館の屋上からも、これらの行事を眺めることができましょう。さらに先般、近隣地主の好意により、明治初年の建造になる農家一棟の寄贈を受けることになりましたので、これをなるべくそのままの形で敷地内に移築して、セミナー室、茶室、談話室などの用に供したいと考えておりますので、この八王子の丘もまた一段とうる

おいと親しみを増すことになりましょう。当セミナー・ハウスが直接行なう事業としての大学共同セミナー、大学教員懇談会、および国際学生セミナーは従前にも増して盛んにして行きたいことはもちろんであります。この四月に新しい試みとして、一橋、慶応、上智、国際基督教、津田塾、聖心女子、成蹊の七大学の国際関係論の合同セミナーが、七大学の指導教授と学生の合宿で行なわれました。このように複数大学の合同企画によるセミナーの場としては、大学セミナー・ハウスは絶好の場であることは論をまつまでもありません。

この辺からやがて大学間の単位交換をはじめ、各種の交流が動き出してくることもありえましょう。先般、西ドイツを訪問しました際、彼地では学生は自由に他大学の講義を選ぶことができ、「何大学で何を学んだ」というよりも、「何教授に何を習った」ということを誇りとしていられること、および一つの大学でずっと勉強した者よりも、いろいろな大学でよい講義を聞いてきた者の方が世間の評価が良いということを知りてうれしく思いました。日本ではここまでの大学交流はまだまだ程遠いと思えますが、実質的には当大学セミナー・ハウスで、現状でも学生諸君にそのような場を与えることができるものと私は信じております。



昭和四七年度を顧みて 新年度に期待する

理事長 加藤 六美
(東京工業大学学長)

この八王子の丘もまた一段とうるおいと親しみを増すことになりましょう。当セミナー・ハウスが直接行なう事業としての大学共同セミナー、大学教員懇談会、および国際学生セミナーは従前にも増して盛んにして行きたいことはもちろんであります。この四月に新しい試みとして、一橋、慶応、上智、国際基督教、津田塾、聖心女子、成蹊の七大学の国際関係論の合同セミナーが、七大学の指導教授と学生の合宿で行なわれました。このように複数大学の合同企画によるセミナーの場としては、大学セミナー・ハウスは絶好の場であることは論をまつまでもありません。

この辺からやがて大学間の単位交換をはじめ、各種の交流が動き出してくることもありえましょう。先般、西ドイツを訪問しました際、彼地では学生は自由に他大学の講義を選ぶことができ、「何大学で何を学んだ」というよりも、「何教授に何を習った」ということを誇りとしていられること、および一つの大学でずっと勉強した者よりも、いろいろな大学でよい講義を聞いてきた者の方が世間の評価が良いということを知りてうれしく思いました。日本ではここまでの大学交流はまだまだ程遠いと思えますが、実質的には当大学セミナー・ハウスで、現状でも学生諸君にそのような場を与えることができるものと私は信じております。

この辺からやがて大学間の単位交換をはじめ、各種の交流が動き出してくることもありえましょう。先般、西ドイツを訪問しました際、彼地では学生は自由に他大学の講義を選ぶことができ、「何大学で何を学んだ」というよりも、「何教授に何を習った」ということを誇りとしていられること、および一つの大学でずっと勉強した者よりも、いろいろな大学でよい講義を聞いてきた者の方が世間の評価が良いということを知りてうれしく思いました。日本ではここまでの大学交流はまだまだ程遠いと思えますが、実質的には当大学セミナー・ハウスで、現状でも学生諸君にそのような場を与えることができるものと私は信じております。

この辺からやがて大学間の単位交換をはじめ、各種の交流が動き出してくることもありえましょう。先般、西ドイツを訪問しました際、彼地では学生は自由に他大学の講義を選ぶことができ、「何大学で何を学んだ」というよりも、「何教授に何を習った」ということを誇りとしていられること、および一つの大学でずっと勉強した者よりも、いろいろな大学でよい講義を聞いてきた者の方が世間の評価が良いということを知りてうれしく思いました。日本ではここまでの大学交流はまだまだ程遠いと思えますが、実質的には当大学セミナー・ハウスで、現状でも学生諸君にそのような場を与えることができるものと私は信じております。

評議員会に備えて二回の理事会を開く

春日井・団岡理事と感謝の晩餐会

昭和四七年度決算および同四八年度予算を審議し、評議員会提出の理事会原案を決定するため、第一回は昭和四八年三月二八日に、第二回は四月二五日に丸の内銀行クラブにおいて理事会を開催した。第一回理事会には、この三月をもって学長または総長の任期が終わり、職責上本法人の理事を辞任されることになる東京大学の加藤一郎、東京都立大学の団勝彦、明治大学の春日井薫の三先生が出席され、また大先輩の上代たの、佐藤喜一郎両氏もお元氣な顔を見せられた。

昭和四七年度は開館七周年に当たったので記念行事のため特別の支出を要したが、これも千人会会計から一三〇万円の繰入金をうけることによって無事決算を完了することができた。特別事業としては文部省補助金による大学共同セミナーと大学教員懇談会、日本万国博覧会記念協会の補助金による国際学生セミナー、日本自転車振興会の補助金によるテニスコート改装工事などが経常収入以外の資金によって行なわれた。

昭和四八年度予算編成に当たっては人件費のベースアップ財源として約四〇〇万円を必要とするため、四六年度に値上げしたままに

前東京大学総長 加藤 一郎氏
元国際基督教大学総長 鶴飼 信成氏
なお昭和四八年度常務理事としてはつぎの五学長が推された。
村井 資長氏(早大)
宮島 龍興氏(教育大)
正田建次郎氏(武蔵大)
守屋美賀雄氏(上智大)
中村 哲氏(法大)

第一六回評議員会

昭和48年6月14日
銀行クラブにて

予算、決算、事業計画等を議決、 鐘ヶ江監事の決算報告を承認

【出席者】清水文彦、福原満洲雄、鐘ヶ江信光、沼田稻次郎、小牧正道、小谷正雄、関口勲、赤堀四郎、小出廉二、鈴木勝、川田侃、鈴木皇、正田建次郎、守屋美賀雄、上代たの、加藤六美、宮島龍興、飯田宗一郎

新たに総長に就任された小牧明大、沼田都立大の両先生、昨年新たに会員校となられた東京家政学



評議員会の審議風景

なお理事の補充が行なわれ、理事長提案どおり左記の四氏が選出され、理事会は新人を加えたのである。
東京医科歯科大学長 清水文彦氏
専修大学長 相馬勝夫氏
前東京大学総長 加藤一郎氏
東京大学教授 向坊 隆氏
議事終了後、晩餐会に移り、会員校相互の理解を深め、また各人相互の友好を深めるなど、よき懇親の機会であった。

昭和47年度収支決算書(經常部、臨時部総括)

【貸借対照表】

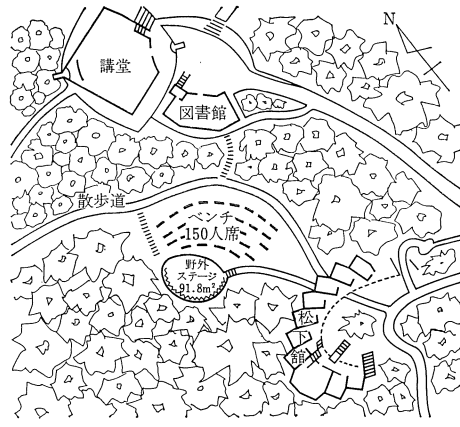
【収支計算書】

借方		貸方		収入		支出	
科 目	金額(円)	科 目	金額(円)	科 目	金額(円)	科 目	金額(円)
(流動資産)		(流動負債)		財産収入	650,321	(一般経費)	
現金	50,000	予約金	1,966,070	寄付金収入	4,475,508	人件費	38,494,177
預貯金	24,934,602	預り金	60,208	開館五周年記念募	11,253,996	一般管理費	6,778,728
有価証券	100,000	未払金	2,157,808	協力会員校会費	15,580,000	法人諸費	593,218
未収金	677,045	經常部	7,803,636	事業収入	41,002,485	土地建物費	5,474,573
仮払金	77,184	(基本財産)		国庫補助金	5,400,000	事業費	17,759,221
臨時部	7,803,636	基本金	3,448,958	団体補助金	1,550,000	(特別経費)	
(固定資産)		(運用財産)		雑収入	2,389,483	固定資産減価償却費	18,402,277
土地	141,765,453	退職手当積立金	1,458,245	千人会会計より繰入	1,300,000	什器備品売却損	96,960
建物	307,237,836	職員厚生資金	2,000,000			本年度剰余金	△3,997,361
構築物	9,819,138	建物補修準備金	73,000,000				
什器備品	16,369,149	開館五周年記念史刊行費	1,000,000				
車輛運搬具	1,795,508	特別運用資金	14,053,862				
図書	3,178,652	前年度繰越金	414,429,396				
樹木	3,431,419	本年度剰余金	△3,997,361				
電話加入権	141,200						
合 計	517,380,822	合 計	517,380,822	合 計	83,601,793	合 計	83,601,793

劇と音楽を野外で楽しむ

野外集会場の工事はじまる

●約三〇坪の野外ステージ
●一五〇人分の林間ベンチ



講堂、図書館そして松下館に囲まれた西側斜面の雑木林の中にレクリエーションの広場ができる。七月下旬に着工し一〇月末には完成する予定であるから、一二月一日にオープンして会員校の学生を招待して劇や音楽などをともに楽しみ、おそらく日本でも珍しい野外集会場を社会に披露できるであろう。開館七周年のよき記念物が日本自転車振興会の補助金によって実現したわけである。

共同セミナー委員会

▼正副委員長会議

川原委員長、根岸、木村両副委員長出席のもとで、四月四日、私学会館で開催、先年度末、満期退任された一二名の委員の補充、委員会開催期日等を話し、立案済みの共同セミナーの確認、大学共同セミナーの今後のあり方等について意見交換を行った。

▼第二回委員会

新委員をまじえた委員会は一ヵ月後の五月四日、私学会館において

て一七名の出席を得て開催された。川原委員長司会のもとに新委員の紹介のあと、主題、指導教授等決定された第六一回までの共同セミナーの確認、その運営と学生参加へのバックアップ、八年間の伝統を誇るこの大学共同セミナーの再開発への方途等について討議がなされた。

ついで新旧委員の歓送迎を兼ねた晩餐会に移り、前委員で出席さ

昭和47年度特別会計決算書

■文部省補助事業（学生指導セミナー）

収入		支出	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
法人負担金	2,935,900	諸謝金	2,188,000
会費収入	2,344,100	旅費(参加者旅費除く)	1,038,180
国庫補助金	3,800,000	参加者旅費	3,998,810
		印刷製本費	1,615,164
		通信運搬費	185,186
		会議費	54,660
合計	9,080,000	合計	9,080,000

■日本万国博覧会記念協会補助事業（国際学生セミナー）

収入		支出	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
法人負担金	358,034	研修費	1,099,534
会費収入	208,500	報酬	200,000
団体補助金	563,000	旅費	584,130
		使用料及賃借料	42,000
		印刷製本費	232,710
		通信運搬費	23,294
		会議費	17,400
		事務費	30,000
		賃金	30,000
合計	1,129,534	合計	1,129,534

れた小西、世良、福井三委員より前年度において企画、担当されたセミナーの感想、反省等についてスピーチもあつて盛會裡に終了した。

▼第三回委員会

六月の共同セミナーをまのあたりにみながら、泊り込みで、という前回の申合せにより六月二三日より二四日にかけてセミナー・ハウスで一四名の出席で開催された。

指導教授、参加学生、ハウス管理職と合同晩餐会の後、図書館において川原委員長の司会のもとで深夜におよぶ議事、懇談がつけられた。

この席上、下期に行なわれる第六二回より六五回までの主題(案)と担当の委員が内定し、具体的な

企画、立案にはいることになった。どの回にも委員が企画、指導に当たられることは今後の進行により大きな成果が期待される。

さらに昭和四九年度大学共同セミナーの企画、テーマの提案と検討、学生に対する募集方法、未決定の委員の選考を急ぐことなどについて討議をつけ、次回の期日を決定して二三時三〇分閉会した。

本年度の委員の諸先生はつぎのとおりである。

〔委員長〕

川原栄峰(早稲田大学教授)

〔副委員長〕

根岸愛子(東京女子大学教授)

木村尚三郎(東京大学助教授)

〔委員〕

丸山貞登(東京工業大学助教授)

広重 徹(日本大学助教授)

○今井 淳(武蔵大学教授)

○柿内賢信(東京大学教授)

○柏崎利之輔(早稲田大学教授)

○川鍋正敏(立教大学教授)

○小堀桂一郎(東京大学教授)

○宮崎繁樹(明治大学教授)

○西村閑也(法政大学教授)

○岡本 剛(東京理科大学教授)

○関口 晃(東京理科大学助教授)

○鈴木幸寿(東京外国語大学教授)

○鈴木宗治(東京医科大学教授)

○徳末安伊子(日本女子大学教授)

○内田祥哉(東京大学教授)

○宇野重昭(成蹊大学教授)

○横田洋三(国際基督教大学助教授)

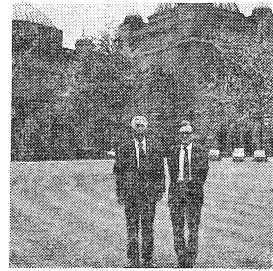
(○印は新任)

大学を法律とか制度から観察するのでなく、今日の大学の中で学生がどのように生かされているかをじかに見たいと思つて、この五月、短いヨーロッパの旅をして来た。カレッジとは、本来、人間的接触の多い、人間性のあふれた場所であるべきなのに、戦後の教育改革によって急激に膨張発展した日本の大学が、人間不信とか疎外感をいだかせるような環境になっているのを見て、何か大事なものが欠けているのではないかという疑問を日ごろ持っていたからである。

20万人の学生都市パリ大学
パリ大学は、いわゆる五月革命の端を発したところだけあつて、校舎の建物の壁には当時を思わせる文字が残っているが、いまはソルボンヌもカルチェ・ラタンも無造作な服装をした学生たちでぎわっている。およそここには、定型といったものがない。パリ大学はあの紛争を契機として教育改革を行ない、学部制を廃止したのである。その対応のすばやさには驚嘆するばかりである。

パリ大学の一つの施設としてパリ大都市がある。広大な地域に学生の宿舎が建っている。三十七棟のフランス館をはじめ、各国の名を冠した家に約七千人の学生が住んでいる。ここには病院、図書館、食堂、運動場、教会堂といった施設が完備している。芝生と樹木が美しい。それぞれの家は「寮」

という言葉ではとても表現できない内容を持った学生のためのレジデンス(宿舎)である。



パーミンガム大学にて
ダルトン教授と

日本館を例にとれば、相良惟一京大教授が館長として同居し、定員七十八名のうち日本人は四十

豊かな人間教育の場

——ヨーロッパの学生寮を見て——

専務理事 飯田宗一郎

離れた地方にある大小、新旧の特色ある大学を訪問することができた。

個人指導行なうケンブリッジ
そしてだれでもいくような著名な大学の訪問はしないことにしたが、ただ一つ中世時代に創設され、今もなお近代的大学として存在し、伝統的なカレッジ教育を行なっているケンブリッジ教育を見学した。そして代表的なキングス・カレッジの個人指導を行なう学寮を見て、カレッジとは本来人間がいて、教育が行なわれる生活がなければいけないということを痛

名、その他は各国の学生である。現在のパリ大学は学生二十万といわれる程の巨大な大学になっているが、各国から集まって来る教授と学生が寝食をとるにして、学問の研さんに励んでいるこの大都市の中には、昔のパリ大学の姿が生かされているのである。各国から来る留学生を迎えるために、留学生会館をつくらなければならないように考えている日本流の国際交流とは、およそ原点において大きな相違がある。

英国ではブリティッシュ・カウンスル(英国文化振興会)の行き届いた日程のもとに、ロンドンから

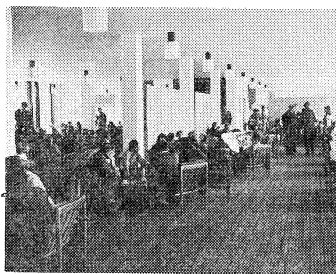
感したのである。大学を考える場合は、この原点に帰らなければ解答は生まれないのである。

ロンドンから北へ汽車で二時間、英国第二の都市パーミンガムがある。市の公園局長がキャン・ヒルをはじめ市内の公園を案内してくれ、春の公園は花の盛りで、美しいとはこういうものかと思うばかりであった。ここにあるパーミンガム大学は、比較的創立が古く一九〇〇年の開校である。近郊の美しい芝生のある丘に六階建ての寮舎を中心に高層アパート式の宿舎が建っている。いずれも学生は個室であるが、食堂や

ラウンジは共同である。彼らはレジデンスと呼んでいるが、寄宿舎などというイメージは全くない。なごやかな食堂はきわめて盛況でそこは食事を食べると同時にコミュニケーションの広場でもある。

パーミンガムからケンブリッジにいく途中のコンチエスター市には、一九六〇年代の新しい大学七校の一つエセックス大学がある。構内に十四階建ての高層アパート式の学生宿舎が数棟空高くそびえている。教育・研究面では学部制をとらず、開かれた領域で自由に専攻を選べるようにしてある。

幸いわたしの勤務している八王子の大学セミナー・ハウスで勉強したことのある東大大学院生二人が留学生として来ていたので、早速手製のコーヒをいただいた。



パーミンガム大学の
教官用コーヒショップ

各層には十六の個室があり、共同のキッチンとコモン・ルームがある。学生は契約によってこの個室を借用している。到底従来の「寮」といった概念では説明することのできない内容を持った宿舎であ

る。この事実がことばをつくり、彼らはこのレジデンスをフラットと呼んでいる。

セミナー・ハウスの原産地
今回の旅行で大きな収穫があったのは、クエーカー派のウッドブルク大学で三泊の客となることのできたことである。パーミンガムの郊外シェリ・オークと呼ばれる大学地区の中にあるこの小さな学寮には、約七十名の教師と学生が寝食を共にしながら学問をしている。ことに学生は世界二十五カ国から来ている。食堂の時間は大切である。八人一組のテーブルで学生は交互に主人役となつて、あれこれとりなしをしている。その日の出来事が報告される。

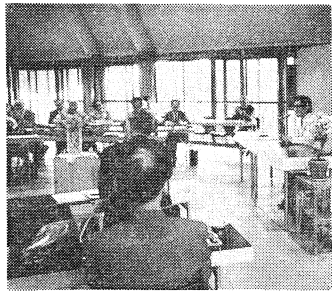
週一回国際フォーラムがある。毎夜九時にティヤがあり、静想の時間がある。チヨコレイトで名高いキャドベリー氏が七十年前、彼別荘であった古風な建物と広大な敷地を寄付して創立されたのがこの小さい大学である。私はセミナー・ハウスの原産地に出会ったような感慨を覚えたのである。この生活には学問とともに人間への深い思いやりがあるからである。

時代は変化する。大学は変貌する。それにつれて学生の宿舎の形態も変わつて来る。そこには模倣では解決できない創造が必要である。変わらぬものは大学には学生という人格ある人間がいるということである。(昭和48年6月16日読売新聞より転載)

第八回大学教員懇談会

主題 大学入試期日について

期日 昭和48年6月16・17日
●特に国立大学の一期・二期制に関連して



入試問題について講演する村松先生

最近、大学入試改革の具体化を目指した論議が盛んである。大学教員懇談会では、すでに第四回(昭和46年9月)に「大学入試改革の現状」の主題で、この問題を取り上げているので、今回は、当面している「入試期日」の問題を考へることとした。問題の性格上第四回と同様に、全国高校長協会、私立中高連等の協力により、高校の先生方にも参加を願ひ、それぞれの立場から問題の所在を探つてみた。

懇談会は、国大協会長でもある当法人の加藤六美理事長、世話人代表の原一郎教授の主題に関連しての挨拶と全般的な問題提起の後二日間わたる討議にはいった。大学側からの発題は、まず二期校の一例として、横浜国大では激

甚な競争倍率にもかかわらず、受験もしくは入学棄権者、初年度退学者が多いため、定員に対する歩留りは補欠募集を要する結果にもなる実状が報告され、このような悩みをもつ二期校では、一期・二期の一本化を望む声が大方であると述べられたが、私立大学の発題者からは、この問題は単に一本化をいうのではなく、大学制度全般をふまえて議論していかないと私大の二期校化という現象も憂慮されるのではないかという意見がつけ加えられた。

一方、高校側からは、現行制度では、同系の大学・学部配分が適切でない点に問題を感じるが、一本化しても特定大学への集中受験の傾向は解消するとは思えない。かえって私大への併願を助長し、受験のための家計負担が懸念され、志望校の決定に神経質にならざるをえない。現行制度を改めるにしても受験生に二回のチャンスを残してほしい。また、入試が成績の列的な序列を表現するあたりに機能している。資格試験的な考え方を導入したり、学力テストに限ることなく異なるテストをいくつかが用意することも工夫したらどうかなどの提案とともに、調

査書、共通テスト、アドミッション・オフィサーの制度化の話題に触れる発言が目立ち、高校側からは、どちらかといえば、入試のものに対する関心を表明する意見、提案が多かった。

全体討議は、大学と高校との共通理解、相互の情報交換の必要性が強調されながら進められ、一期・二期制の一本化と共通テストを中心に個々の課題についても討議が白熱していた。

また、発題に先だって話題提供として、村松喬氏からは、社会と入試のかかわり合いについて、文部省の中山和彦氏からは、諸外国の入試制度の近況が紹介されたが、両氏に対する質疑も活発に行なわれ、入試改善に寄せる参会者の意欲がうかがわれた。改革に伴う得失を十分に検討することは大切であるが、解決の方向を見定め歩み出す時期であろうという点に關しては程度の差はあったが、今回の懇談会の支配的な空気といえようである。

◇ プログラム

《話題提供》

第八回大学教員懇談会

世話人代表

教育評論家

文部省大学学術局

《シンポジウム》

▽大学側

横浜国立大学教授

早稲田大学教授

駒沢大学教授

▽高校側

都立戸山高校校長

都立白鷺高校教諭

武蔵高校教頭

日大第二高校教諭

《全体会議》

《参加者》 五一名

寄 贈 図 書

(昭和48年3月~6月)

- | | | | |
|--------------------------|--|---------------------|--------------|
| 『敗北の構造』 | 弓立社 | 『Asian Culture』No.3 | 工学院大学図書館 |
| 『シンガポールの経済開発』 | 松尾 弘殿 | 『計量経済学の手引き』 | 西川俊作殿 |
| 『インド社会経済史研究』 | 深沢 宏殿 | 『生産研究所紀要』四号 | 早稲田大学生産研究所 |
| 『徳川思想小史』 | 源 了圓殿 | 『ゆべりにあ』創刊号 | 跡見学園女子大学英文学会 |
| 『学士会会報』 | 学士会殿 | 『健康論序説』 | スタンダード石油広報部 |
| 『小日本主義のすすめ』 | 川田侃殿 | 『多摩の洋学』多摩文化研究会 | 『ユーラシア大陸思索行』 |
| 『大正期の急進的自由主義』 | 宇梶洋司殿 | 『市民のための経済入門』 | 力石定一殿 |
| 『進歩の終焉』偶然と必然』 | 渡辺 格殿 | | |
| 『考える子・考えない子』 | 近藤薫樹殿 | | |
| 『世界の名著』四八・二一巻 | 中央公論社 | | |
| 『異質文化の衝撃と波動』 | 川西 進殿 | | |
| 『聖書注解』キリスト者学生会 | 川西 進殿 | | |
| 『現代のエスプリ』祖父江孝男殿 | 『Studies in Communication』 | | |
| 『生命の色』『文学のひろ』 | 高橋源次殿 | | |
| 『工学院大学研究報告』工学院大学研究発表講演会』 | 『早稲田フォーラム』 | | |
| | 『早稲田大学総長広報課』 | | |
| | 『東工大(四)、理科大(四)、農工大(三)、電通大(三)、上智大(三)、東大(二)、専修大(二)、中大(二)、東洋大(二)、日大(二)、早大(二)、東京医歯大、東外大、東教大、横浜国大、駒沢大、東女大、明大、文部省、その他各一名、高校一二校(一二) | | |

第57回大学共同セミナー

— 新入生歓迎 —

主題 ↓ 大学・共同体・個人 — 個人に社会を管理する力はあるのか
期日 ↓ 昭和48年5月25 ~ 27日

《全体講義》

I 「学ぶ」主体をめぐって — 知識に取り組む構えの問題 —

東洋大学教授 飯島宗享氏

II 生存の危機と科学の役割 — 自然科学と社会科学の総合を目指して —

東京都立大学教授 半谷高久氏

A 《セクショ ン演習》
現代日本社会と大学 — 構造改革の方向を考える —

上智大学教授 安斎 伸氏

B 津田塾大学教授 井門富二夫氏
組織と個人との関係 — 柔組織の構造 —

東京農工大助教授 本谷 勲氏
東京立大学教授 半谷高久氏
運営委員長

学習院大学教授 児玉久雄氏
《参加学生》
六七名(うち女子一八名)

上智大(七)、早大(七)、津田塾大(七)、東洋大(七)、一橋大(七)、武蔵大(五)、東大(四)、慶大(三)、明学大(二)、学習院大(二)、東京理科大(二)、拓大(二)、東女大(二)、東北大、都立大、聖心女大、中大、成蹊大、専修大、茨城大、東工大、日大、共立女大各一名。(二三大学)

上智大(七)、早大(七)、津田塾大(七)、東洋大(七)、一橋大(七)、武蔵大(五)、東大(四)、慶大(三)、明学大(二)、学習院大(二)、東京理科大(二)、拓大(二)、東女大(二)、東北大、都立大、聖心女大、中大、成蹊大、専修大、茨城大、東工大、日大、共立女大各一名。(二三大学)

上智大(七)、早大(七)、津田塾大(七)、東洋大(七)、一橋大(七)、武蔵大(五)、東大(四)、慶大(三)、明学大(二)、学習院大(二)、東京理科大(二)、拓大(二)、東女大(二)、東北大、都立大、聖心女大、中大、成蹊大、専修大、茨城大、東工大、日大、共立女大各一名。(二三大学)

上智大(七)、早大(七)、津田塾大(七)、東洋大(七)、一橋大(七)、武蔵大(五)、東大(四)、慶大(三)、明学大(二)、学習院大(二)、東京理科大(二)、拓大(二)、東女大(二)、東北大、都立大、聖心女大、中大、成蹊大、専修大、茨城大、東工大、日大、共立女大各一名。(二三大学)

上智大(七)、早大(七)、津田塾大(七)、東洋大(七)、一橋大(七)、武蔵大(五)、東大(四)、慶大(三)、明学大(二)、学習院大(二)、東京理科大(二)、拓大(二)、東女大(二)、東北大、都立大、聖心女大、中大、成蹊大、専修大、茨城大、東工大、日大、共立女大各一名。(二三大学)

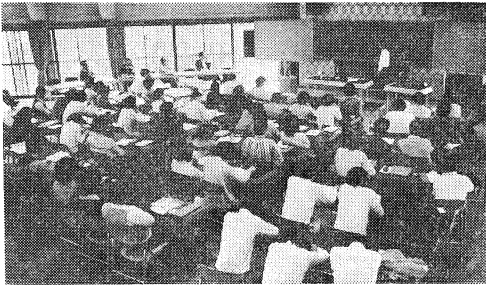
負うた子に学ぶ

上智大学教授 安斎 伸

今回、開催された第五七回大学共同セミナーに講師、助言者として参加したが、それは親友の津田塾大学教授井門富二夫氏が公務のため全期間出席できないため、ピンチヒッターとしてやむなくお引き受けしたような感じであった。したがって、自発的に時間をつくり、講習費を納めて参加した各大学の学生諸君の意欲と熱意にまず打たれた。

セミナー・ハウスの丘にのぼる前は大過なく義務を果せばというような気持であったが、若い学生たちの意欲と主催者や他の講師各位の献身に打たれて、セミナーが始まるや私にも旺盛な参加意欲が湧き起ってきた。

学習院の児玉教授がこのセミナー



盛んな討論——セミナー風景

学習院の児玉教授がこのセミナー

ことにあきたらず、野猿時をのぼってきたことが痛いほどに感ぜられた。現代社会における大学の位置づけとその意義、大学の大学内における、また社会に対するあり方と働きかけの方向を求めている。しかし、彼らの問題意識と真剣な叫びにこたえて、彼らの心とからだに適切な場を備え、大学人が協力して新時代の大学の創造に励むという基本的な姿勢は参加者の所属する各大学にも残念ながら見られないようであった。したがって、教師と学生のふれあいの場で行動主体の主体そのものに目を注いで「存在」とのかかわりを説いた東洋大飯島教授の全体講義、科学の領域を厳しく設定

して科学主義に警告を発した東京都立大学半谷教授、またAセクションでの社会変動と日本人の宇宙観についての井門教授の鋭い分析など、早天の慈雨のごとく若い魂にすい上げられたことと思う。セクションによって「個人と組織」「公害と国土保全」の問題が論議され、それがシンポジウムで統合されるなど、日本の現実をふまえて個人・大学・社会に若人の眼を大きく開き、同時にわれわれが知らねばならず、解決せねばならぬことが無限にあることを、全参加者に悟らしめたこのセミナーの意義は大きい。最後に私たちのAセクションは今後も研究グループとして活動することを報告しておきたい。

▼新しい自己の創造へ— 新入生歓迎セミナーに参加して ▲

東北大学 斎藤 智子

受験勉強から解放され、入学式も行なわれぬまま「大学」に入學してから、すでに二ヵ月になります。不慣れから来る気ぜわしい初めの数週間が過ぎたあとは、何と単調で平和な(安易な)毎日が続いたことでしょう。私が高校の時考えていた大学生活は、もっと悩むべきものでした。いくら避けようとしても、種々の問題にぶつからざるを得ないのだと。しかし、現実には全く何も起こらずに過ぎて行きました。私は、その原因が私自身にあることに気づかず、「大学ってこんなも

今までの、低レベルで一人で迷っていたのが、ほんの少し、レベル

第58回大学共同セミナー

主題 ↓ 現代世界とナショナルリズム

— 新しい国際関係秩序を求めて —

期日 ↓ 昭和48年6月22(土) 24(日)

《全体講義》

現代世界とナショナルリズム

一橋大学名誉教授 板垣與一氏

一橋大学名誉教授 高島善哉氏

《セクション演習》

A 南北問題―体制・民族・階級―

アジア経済研究所主任研究員 林 武氏

B 多国籍企業問題

横浜国立大学教授 宮崎義一氏

C ヨーロッパ経済統合―ECの

対外・対内関係― 荒木信義氏

D 後発社会の近代化と産業化

東京大学助教授 富永健一氏

E 資源・エネルギーの将来

東京大学助教授 茅 陽一氏

板垣先生と高島先生ご夫妻を囲んで。
後列左から林、飯田、宮崎、荒木、深沢の各先生



運営委員長

一橋大学教授 深沢 宏氏

《参加学生》

七五名(うち女子二五名)

津田塾大(二三)、慶大(一一)、

一橋大(九)、早大(五)、上智大

(五)、中大(四)、神奈川大(三)、

明大(三)、東外大(二)、東大

(二)、明学大(二)、法大(二)、

日大(二)、お茶の水女大、埼玉

大、横浜国大、都立大、成蹊大、

立大、東女大、武蔵大、東経大、

亜細亜大、学習院大、関東学院大

各一名(二五大学)

◇

今回のセミナーは、企画を板垣
與一橋大名譽教授が、運営委員
長を深沢宏一橋大教授が担当さ
れ、激しくゆれ動く国際経済関係
の動態をナショナルリズムの統一視

点から分析し、新しい国際関係秩
序の形成というコンテクストの中
で、新旧ナショナルリズムの構造、
機能、形態変化を、現代世界が当
面している、EC、通貨、資源・
エネルギーなどの具体的な問題に
即して究明することをテーマとし
て行なわれた。

全体講義において、板垣先生は
ナショナルリズムの歴史的形成過程
と一九五〇年代を境としたその質
的变化について述べられ、また高
島先生は従来のナショナルリズムの
取上げ方において知識階級と国民
との間にズレがあることを指摘さ
れ、それを埋めることがわれわれ
の役割であると強調されるなど、
両先生の熱のこもった講義を基軸
にセミナーは進められた。

なかでも唯一の工学系出身であ
る茅先生の演習は、分析的な社会
科学系の立場と違った、その方法
論のユニークさが参加者の興味を
誘った。板垣先生が全期間泊られ
たこともあり充実したセミナーで
あった。

セミナー開催予告

◆ 大学共同セミナー

第62回 現代資本主義の諸問題

第63回 日本文学の新しい研究法

第64回 新時代を迎える国連

第65回 言葉と文化

◆ 国際学生セミナー

第3回 アジアの平和と開発―日本を考える―

11月30日～12月2日

12月14日～16日

昭和49年1月11日～13日

2月15日～17日

10月12日～14日

アップしたように思えます。所属
セクションのテーマに関して思索
を深められたなら、一番良いのか
も知れませんが、私にとっては、
もつとずつと根本的な意味での勉
強になったと思っています。また
あのすばらしい環境となごやかな
雰囲気も、忘れがたく思います。

♣

このような企画が、さらに発展
し、全国の学生が参加できるよう
なることを願ってやみません。

上智大学 吉田友彦

私が今年大学に入学し、四月五
月と、何の目標もないまま、毎日
心の空虚さを感じながら生活して
いた時に、このセミナーを知り、
何か目標が見つかるのではないか
という意識とともに、また興味も
あり、出席しました。

しかし、多種多様な人々と討論
してゆくほどに、今まで私の持つ
ていた、考えや価値感が足元から
くずれ去ってゆく音を聞き、悲愴
の感を受けました。

その結果、出席した事により、
目標を見出すどころか、私は、
一層泥沼の中に、つき落とされる
はめになってしまいました。

一年に入学してすぐに、このよ
うな経験を持つ者は、まことに少
ないでしょうが、私の経験した点
を考えてみますと、このようなセ
ミナー(特に一年にとって、今回
のようなテーマのセミナー)は、
非常に大切だと思えました。

も、むしろいつそ泥沼の中に引
きずり込んでくれる。そしてその
上で自分なりの目標を見つけてゆ
く。

津田塾大学 本多美沙子

このようなセミナーは、もつと
広く、もつと多くの人に味わって
もらいたいと思いました。

◆

大学入学以来、個人的社会的な
問題にぶつかり、しかし何かやら
ねばならないと思っていたが、話
し相手もない、気持はあせる、
とこんな状態が続いた。そんな時
セミナーの掲示を知り、今度のセ
ミナーに参加した。

セミナーは即席の討論会ではな
く、事前の二度にわたる学習会で
実際に専門の先生方を囲んでの話
合いは、活発であり、メンバーの
雰囲気もかなりうちとけていた。

メンバーが十数人で一つのセクシ
ョンを構成したのが、良かったの
だと思う。

私は二泊三日のセミナーで、心
のちやもやが解決できたとはいわ
ない。しかし自分と同じような人
人に知りあえた事、セミナーハウ
スを知った事は、大きな成果であ
り、一つの手がかりであった。

八王子の丘を下って、今セクシ
ョンのメンバーは、そのサークル
をつくり、八王子での討論をより
充実しようとしている。だから八
王子セミナーは決して二泊三日で
終りではなく、一つの契機、始ま
りであると思う。

第56回大学共同セミナー

主題 一九三〇年代を土俵として日本の外交を考える
期日 昭和47年4月22、24日

《セクション演習》

A 満州事変と満州国

国際基督教大学・聖心女子大学 講師 緒方貞子氏

B 大東亜共栄圏とアジア主義

上智大学教授 三輪公忠氏

C 日中戦争

電気通信大学助教授

D 一九三〇年代の外交政策決定過程

一橋大学教授 細谷千博氏

E フアンズム論

慶応義塾大学修士課程

F 一九三〇年代の日本の社会

慶応義塾大学教授 池井 優氏

《チューター》

慶応義塾大学博士課程 増田 弘氏

国際基督教大学助手 井上真蔵氏

聖心女子大学講師 野林 健氏

上智大学修士課程 中川 元氏

成蹊大学修士課程 杉浦 明氏

《参加学生》

六〇名(うち女子二〇名)

慶大(一六)、一橋大(一三)、成蹊大(一一)、聖心女大(八)、I

CU(五)、津田塾大(四)、上智

大(三)

このセミナーは会員大学七つのゼミが連合して行なったもので、一般公募をしない大学共同セミナーとして実験的な意味を持つものである。指導教授陣は細谷先生をはじめ、三輪、池井、藤井先生など、共同セミナー委員あるいは共同セミナーの指導教授としての経験を有する先生方で、大学共同セミナーの意義を認め、セミナーハウスの効果的な利用の一例を示したものと特筆できる。

各セクションは一九三〇年代の日本外交を中心に学生の個々の研究テーマに沿って編成され、研究・討論が進められた。セミナーの企画・運営はすべてゼミの学生幹事によって行なわれたが、共同セミナーにおける学生参加の新しい形態として注目される。

また、このようなセミナーの持つ意義としては、従来、当法人で主張してきた大学間交流の促進とともに、他校ゼミとの共同研究による学生への刺激やそれに伴う研究の深化などをあげることができよう。

千人会の輪を広げる

「この人をご紹介いたします」

前号に引きつづいて新会員を多数お迎えできることは感謝しなければならぬ。教育はきれいな金で行なわれるから尊敬されるのであり、美しい目的に参加する人々が多くなつたとき、国民の側から創造的な教育が生まれる。セミナー・ハウスが本場に民主的な財団法人として成長するためには、千人会の存在は貴重である。東大教

授前田護郎先生は、セミナー・ハウスで勉強した学生たちが社会人となったときに千人会員になってくれることを要望しておられる。セミナー・ハウスの将来は若い学生の手にあるという事は、実はこうした事実をつくることなのである。千人会はセミナー・ハウスの精神的支柱として太ってほしい。

新しく会員となられた方々
六三名(昭和48年6月末現在)
現在会員八〇九名

大学人 六三八人
社会人 一七一人

第20回報告(申込順)

法政大学教授 山口重克服

青山学院大学教授 宇都木 章殿

日本女子経済短期大学講師 宮本 勉殿

城西大学教授 鈴木 喬殿

東洋信託銀行副社長 大塚正夫殿

東京大助教授 石井不二雄殿

千人会員の申込みと専務理事を訪れた
新卒の水野悦子さん、萩原清子さん



Table with columns for member names and affiliations. Includes entries like '東京経済大学教授 色川大吉殿', '立正大学教授 木村尚三郎殿', '早稲田大学教授 古西信夫殿', etc.

● 寄付金報告

(昭和48年3月～6月)

ご支援を感謝して拝受いたしました。

【寄付者「芳名」】

- 三、六〇〇円 東京大学名誉教授 松尾孝嶺殿 他IBPシンポジウム参加者 一同殿
- 四、九三〇円 慶応義塾大学西川研究会殿
- 二、〇〇〇円 東京都立大学教授 辻正三殿
- 一〇、六五九円 第2回国立高等専門学校 理事会会議殿
- 三、〇〇〇円 東洋大学茶道研究会殿
- 一〇、〇〇〇円 円谷プロダクション殿
- 七、五八〇円 《植樹基金》
- 八、〇〇〇円 第53回大学共同セミナー殿
- 一〇、七六〇円 第55回大学共同セミナー殿
- 二、〇〇〇円 東京大学比較文学会殿
- 六、〇〇〇円 日本印刷技術協会殿
- 九、〇〇〇円 昭和48年度毎日新聞 新入社員一同殿
- 六、三九〇円 第56回大学共同セミナー殿
- 三、〇〇〇円 第57回大学共同セミナー殿
- 二、〇〇〇円 豊島事務所青年部殿
- 六、六〇〇円 新生活運動協会殿
- 八、〇八五円 昭和48年度会員校 事務連絡会一同殿
- 二〇、〇〇〇円 第58回大学共同セミナー殿
- 三、〇〇〇円 市光工業株式会社 市光工業株式会社 東洋英和女学院短期大学 東洋英和女学院短期大学 飯田宗一郎殿
- 《現物寄付》
- 白黒テレビ・応接セット 大学セミナー・ハウス専務理事 飯田宗一郎殿
- ポプラ苗三〇本 早稲田奉仕園 布施濤雄殿
- コノガシワ苗二本 JIBP・PP研究会殿
- つじじ苗七〇本、つげ苗三〇本 八王子市役所公書課殿
- 枕カバー一五〇枚 サンエスクリーナー 関口 実殿
- もみ苗一本 玉川大学殿

- B 阿部産業(株) 大塩俊介殿
- C 早稲田大学教授 柳下綱道殿
- C 東京外国語大学助教授 浅井邦二殿

- B 東京大学助教授 築田長世殿
- B 東京大学教授 松原治郎殿
- B 成城大学教授 山下 肇殿
- C 東京理科大学助教授 岡田 清殿

- C お茶の水女子大学助教授 藤林宏一殿
- B 中央大学教授 尾田幸雄殿
- B 中央大学教授 高柳 暁殿

♥会費ありがとうございました(敬称略)

昭和48年4～6月

- 我妻栄、太田正孝、佐藤和男、谷口茂、井上百合子、石井千尋、都留春夫、小泉文夫、加藤寛、寺内礼治郎、村山松雄、菊地昌典、染谷恭次郎、村上正夫、高峯一愚、塩田庄兵衛、池井優、中島直忠、大槻盛一、江渕浩美、豊島広司、佐古純一郎、二宮永蔵、木村尚三郎、村田喜代治、細谷千博、岡本栄一、工藤康雄、犬塚博、一柳富夫、富子勝久、岩崎英二郎、羽田三郎、原治、小原清成、山田一郎、池宮英才、山崎誠、須田豊太郎、栃原敏房、竹内昭夫、伊倉退蔵、小泉一郎、大原栄一、桐生富久、和田昌衛、渡辺信夫、古西信夫、村上千賀子、川口弘、柏原啓一、荒井敏、竹内啓一、橋本次郎、堤辰次郎、中村英雄、加藤一郎、芳賀徹、椿弘次、長谷川幸男、鳥居照男、赤根也、芹沢栄、野間三郎、中村孝俊、阪本泉、谷口汎邦、天

- C 専修大学教授 増淵恒吉殿
- C 法政大学教授 佐藤 毅殿
- B 東京教育大学助教授 森岡清美殿

- B 明治大学理事長 加藤五六殿
- C 東京都立多摩高等学校教頭 渡辺忠胤殿
- C 上智大学副学長 山本襄治殿
- A 日本ユネスコ国内委員会 事務総長 西田亀久夫殿

- B 立教大学教授 川鍋正敏殿
- B 電気通信大学教授 井早康正殿
- B 電気通信大学教授 伊藤卓爾殿

城勲、林卓夫、手塚一朗、奥山典生、岡田已代次、内田市五郎、千野熊男、吉利喜美、笠耐、武藤富男、芳山邦弘、栗田見瑞、石川孝夫、榎山欽二郎、小池勇二郎、玉真秀雄、徳永勇雄、松田信男、望月清司、佐藤弦、荒川有史、鈴木

- 正紀、高橋忠次郎、関根隆光、林俊一、目黒謙次郎、竹田政民、藤井耕一、徳末愛子、今井義夫、道喜美代、小島守生、黒田成俊、柴田恭二、浅井義博、鶴見和子、久保亮五、岩橋宣隆、井上宇市、篠原三三、西川治、藤野登、望月継治、松井源吾、上代たの、竹内喜夫、慶谷淑夫、奥村敏恵、和歌森孝悦、中山昌、高山旭、滋賀秀三、浅井邦二、柳下綱道、藤林宏一、荒井基、笠松章、川田侃、岡田正弘、北野美枝子、朱牟田夏雄、川島順平、青木郁朗、川鍋正敏、深沢宏、江沢洋、太田秀通、名東孝二、土田美芳、保々房、秀村欣二、萩原清子、長清子、見田宗介、松尾浩也、大河内暁男、前田護郎、伊藤卓爾、作間忠雄、芝川栄三、市井三郎、鈴木二郎

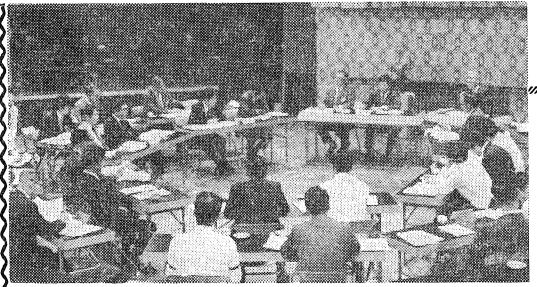
昭和47年度千人会費収支決算書

〈収支計算書〉

科目	入		支	
	金額(円)		金額(円)	
会費収入	2,497,787		事務費	159,095
雑収入	194,487		記念品費	270,000
			経常部へ繰出	1,300,000
			本年度剰余金	963,179
合計	2,692,274		合計	2,692,274

〈貸借対照表〉

科目	借方		貸方	
	金額(円)		金額(円)	
流動資産			流動負債	
預貯金	6,145,152		前年度繰越金	5,181,973
			本年度剰余金	963,179
合計	6,145,152		合計	6,145,152



会員校事務連絡会——盛会裡に終了

第七回 会員校事務連絡会

日常業務を通じて、当ハウスともっとも関係が深く、かつ学生との接触も多い会員校の事務担当者の方々と、今年もまた泊り込みで連絡会を開催した。今回出席された方々は、ほとんどがはじめてセミナー・ハウスに来られた方が多く、こんなにすばらしいところとは知らなかったと、異口同音に感嘆していた。お陰で当ハウスの宿泊施設の実際を知っていただき、担当者相互の親睦を深めることができた。

◆◆◆緑陰にベンチをつくる◆◆◆

憩いと語り合いのために八カ所に二九脚

早く若者が集う木陰がほしい早く緑の丘をつくりたい、という折るような気持で植えた数千本の苗木、思いをこめた数百年の記念樹が七年の年月を経て見事に大きく成長した。学生が巣箱をつくってくれた。小鳥が早朝から林の中でないてくれる。これと想う展望の場所に、これと想う樹木の側にベンチがほしくなる。そのような丘になった。

さくらの花見のために、または夏の木陰に憩うために、当ハウスの作業員の手で木製のすば



午後三時三〇分講堂において二〇校、三二名の出席を得て開会、北沢業務課長の司会のもとに、飯田専務理事のあいさつと全体報告、出席者と職員の自己紹介、配付資料にもつき関係各課の現況報告が行なわれた。

五時、施設案内、六時、夕食の後、七時から再び講堂において協議会を行ない、東京大学法学部高田忠義氏を座長に、電気通信大学塚田八洲男氏を副座長に推し、主として会員校側の発言を中心とするような連絡事項、要望などが活発に話し合われ、九時閉会した。大学セミナー・ハウスからの連絡文書は、各学部にも発送してほしい。

◆セミナー・ハウスのPRはゼミの教官にも積極的に呼びかけてほしい。

◆千人会の名簿を各大学の担当者に送っていただきたい。

◆施設利用の場合、ゼミで来る人と学生だけで来る人の割合はどうか。

◆大学事務職員の研修会なども当ハウスで行なってはどうか。

◆一二月～三月までは利用率が低いが、この期間は社会人向けにPRしてはどうだろうか。またこの期間は、各大学の行事として利用したらよいと思う。

その他、各大学側からの要望事項、下半期利用向上対策、会員校優先対策、法人連絡事項などが活発に出され盛会裡に終了した。

▼会員校事務担当者名簿▲

大学名	職名	氏名	担当部課
青山学院大学	学 生 部	佐藤 英夫	学 生 部 学 生 課
大妻女子大学	教 務 部 長	佐藤 博	教 務 部 学 務 課
お茶の水女子大学	課 外 活 動 係 長	井 隆一	学 生 部 学 生 課
共立女子大学	学 生 課 長	平岡 之長	学 生 部 学 生 課
慶応義塾大学	庶 務 課 長	小沢 恒二	文 書 部 庶 務 課
国際基督教大学	学 生 課 長	青木 寛	学 生 部 学 生 課
順天堂大学	学 生 課 長	上西 守夫	学 生 部 学 生 課
上智大学	学 生 課 長	瀧村 和久	学 生 部 学 生 課
成蹊大学	庶 務 課	森下 安子	学 生 部 庶 務 課
専修大学	学 生 課 長	飯島金四郎	学 務 部 学 生 課
中央大学	学 生 課 長	須藤 昭二	学 生 部 学 生 課
津田塾大学	学 生 課 長	寺出 澄子	学 生 部 学 生 課
電気通信大学	学 生 課 長	塚田八洲男	学 生 部 学 生 課
東京大学	教 養 掛 長	中山 担小	学 生 部 学 生 課
東 洋 大 学	学 生 課 長	大山惣寿郎	学 生 部 学 生 課
東京医科歯科大学	学 生 課 長	小林 敬二	学 生 部 学 生 課
東京学芸大学	学 生 課 長	北沢 俊男	学 生 部 学 生 課
東京外国語大学	教 務 係 長	山本 唯雄	学 生 部 学 生 課
東京家政学院大学	教 務 課 長	見藤 妙子	学 生 部 学 生 課
東京教育大学	補 導 課 長	山崎 寛一	学 生 部 補 導 課
東京家政学院大学	教 務 課 長	近藤 寛	学 生 部 教 務 課
東京経済大学	用 度 管 理 課 長	佐藤 幹雄	用 度 管 理 課
東京工業大学	用 度 管 理 課 長	林 俊彦	教 務 部 教 務 課
東京慈恵会医科大学	教 務 課 長	柴山 善一	教 務 部 教 務 課
東京女子大学	学 生 課 長	鈴木 法子	学 生 部 学 生 課
東京都立大学	学 生 課 長	岡部 光男	学 生 部 学 生 課
東京農工大学	学 生 課 長	浦沢 健治	学 生 部 学 生 課
東京理科大学	庶 務 課 長	佐藤 東明	庶 務 課
日本女子大学	学 務 部 長	辻 三郎	学 生 部 学 生 課
日本大学	学 務 部 長	辻 三郎	学 生 部 学 生 課
法政大学	学 務 部 長	児玉 キヨ	学 生 部 学 生 課
武蔵工業大学	学 生 課 長	須田 広志	学 生 部 学 生 課
武蔵大学	学 生 課 長	堀内 永宇	学 生 部 学 生 課
一橋大学	学 務 部 長	後藤 政勝	学 務 部 学 務 課
明治大学	学 生 課 長	永野 徳光	学 生 部 学 務 課
明治学院大学	学 務 課 長	箕輪 潔	学 務 部 学 務 課
横浜国立大学	学 生 課 長	加藤総一郎	学 生 部 学 務 課
立教大学	学 生 課 長	足立省一郎	学 生 部 学 務 課
早稲田大学	学 生 課 長	高瀬 敏行	学 生 部 学 務 課

業務通信

利用者の皆さんが植えられた記念樹は、今緑をたたえて、ここセミナー・ハウスの丘を美しくしている。今年も前年を上回るものと予想しているが、今のところ必ずしも好成績とはいえない。灯火親しむ好シーズンを迎えますので大いにご利用いただきたい。つぎの統計表をご参照下さい。

月	昭和47年		昭和48年		増減
	年度	度	年度	度	
6	三、四五人	三、三二人	三、三二人	一六三人	
5	四、九三人	四、四九人	四、二七四人	一、七四八人	
4	三、七五人	三、五五八人	三、五五八人	一、二九八人	

ぜひとも会員校の活発な利用を望みたい。今年度にはいり、全然利用していない会員校は八校、一回だけ利用した会員校は一二校である。毎月利用している会員校は

いつも奉仕をしてくれる彦由ゼミの学生



上智大学、東京学芸大学、中央大学、立教大学、東京都立大学、明治学院大学、東京理科大学などの七校。業務課のPR不足を痛感している。これからはドンドン会員校との連絡を密にしていきたい。

例年のことではあるが、四月は新入生のオリエンテーションでこの丘を利用する学校が多い。入学の喜びを発散しているようであるが、これも度をこさない限り好感がもてる。時にはうるわしい情景が見られる。その一つを紹介しよう。

玉川大学の彦由教授のゼミはよく利用される常連の一つだが、毎朝自主的に朝礼を行なう。国旗とセミナー・ハウス旗を掲げ、さわやかな空気の中で声も清く合唱しながら一日を始める。いつも勤労奉仕をしてくれるが、今年は雑草を刈ってくれた。汗をかいて鎌をふるっている姿を見ると、近來失われた美しいものを発見したようで心楽しい。この丘にふさわしい風景である。

夏は例年外国の学生が来る。今年も多数の予約を受けていたが、次々と取消しの連絡を受けいささか淋しい気がする。ドルの影響かとも思われる。しかし、ニューヨーク大学のアジア研究グループや日米学生会議の学生達が来日されるので日本の情緒をふんだんに味わってもらいたいと今から準備をすすめている。なお近年夏の行事

として学会・研究会などが多くなり毎夏大学英语教育学会の長期セミナーが行なわれ、本年は七月一日から三日までである。また七月一五日から四日間上智大学の鶴見和子先生達の近代化研究の合宿があり、七月二〇日から三日間東京大学医科学研究所の先生約二〇〇名が映写機を使って研究発表会を行なうなど、これからこうした研究者グループの利用を開拓したいと思っている。先生方の積極的なPRとご自分の属している学会などをおつれ下さるようお願いしたい。

利用状況



▼三月

- 日本基督教会東京中会特別委員会 田辺 良義
- 東京都立大学助教授 村瀬 信也
- 立教大学講師 周郷 博
- お茶の水女子大学教授 石渡 毅
- ヤシカ(株)新任管理者研修 岡本 清
- 東京学芸大学 一橋大学教授

- 東京学芸大学講師 福富 護
- 東京大学教授 佐伯 有一
- 東京都立大学教授 谷 重雄
- 富士電機労働組合東京支部 武藤俊之助
- 日本大学教授 羽田 三郎
- 青山学院大学教授 桐谷 維
- 東京都立大学助教授 石井 昭
- 日本国際連合学生連盟春季全国大会 学生セミナー
- 杉野女子大学助教授 田村 皖司
- 玉川大学助教授 勢山 秀子
- 独協大学助教授 大久保貞義
- 東京都立大学助教授 松尾 孝嶺
- 東京大学教授 矢津 建三
- ゼノア(株)社員研修 久保内信子
- 学習院大学講師 狩野 紀昭
- お茶の水女子大学助手 岡田 進
- 第55回大学共同セミナー 鴨沢 巖
- 電気通信大学講師 岡本 康雄
- 八王子生活指導研究会 花香 実
- 東京外国語大学助教授 松本享英語教育研究会英語研修 村山 元英
- キリスト者学生会(全国集会) 中央大学助教授 伝田 章
- 一橋大学教授 東京学芸大学助手 水野 孝雄
- 東京大学教授 専修大学教授 望月 清司
- 法政大学教授 八王子大丸労働組合 武蔵大学教授 桜井 毅
- 松本享英語教育研究会英語研修 浅沼商会(株) 中林 要蔵
- 中央大学助教授 学習院大学助教授 浅枝 陽
- 東京都立大学助教授 西久保保育園(保育研究) 早稲田大学生産研究所教授 松田 正一
- 白梅学園短期大学教授 久保田 浩
- 東京都立大学教授 金子ハルオ
- 青山学院大学教授 天利 長三
- ユース・ディンダケイ・サークル (教師研修)

- 東京学芸大学教授 榎井 常喜
- 東京都立大学教授 沼田稲次郎
- 東京都立大学助教授 二村 敏子
- 東京都立お茶の水職業訓練校 若林 貞雄
- 東京理科大学学生課長 魚津 貞夫
- 東京都立大学教授 塩田庄兵衛
- 日本印刷技術協会 中市 良平
- 国学院大学教授 樋口 清之
- 小西六写真工業(株) 井上 定臣
- 日本W・F・A 東京スクールオブビジネス 野林 正路
- 法政大学助教授 松田 武彦
- 東京工業大学助教授 野村 東助
- 東京学芸大学助教授 竹内 真一
- 明治学院大学助教授 半田 隆
- 東京理科大学教授 今福 愛志
- 日本大学 「ひと」編集部 熊谷 孝
- 文学教育研究者集団 向井 武文
- 東京経済大学教授 浦野学園すみれ幼稚園 田村 恭
- 早稲田大学教授 水野 孝雄
- 早稲田大学助手 望月 清司
- 中央大学教授 三橋 文明
- 英語教育協議会 松下 幸夫

